

グリーンインフラの考え方を取り入れた市の取組と資金調達について

1 グリーンインフラの概要

(1) グリーンインフラとは

『社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組』 ▶国土交通省 グリーンインフラ推進戦略 2023 における説明

八王子市で定める自然環境（みどり）が有する多様な機能

ア 自然保全・改善

エ 景観形成・創出

イ 都市防災向上

オ 地域コミュニティ形成

ウ レクリエーション

カ 子育て・環境教育

▶八王子市みどりの基本計画（中間改定版）より

(2) グリーンインフラで解決を目指す主な地域課題

まちづくりにグリーンインフラの考え方を取り入れ、解決を目指す地域課題には以下の6つがあげられる。

ア 雨水流出抑制・浸水軽減

エ ゼロカーボン

イ 暑熱対策

オ 健康増進

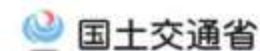
ウ 生物多様性確保

カ にぎわい創出

▶国土交通省「緑の基本計画×グリーンインフラ
ガイドライン（案）」より

グリーンインフラとは、『社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組』

グリーンインフラがもたらす多面的な効果



▶国土交通省総合政策局 2020/9/16 第56回レジリエンス懇談会「国土強靱化に資するグリーンインフラの推進」より抜粋

グリーンインフラが存在している場・空間

グリーンインフラは、山地から海に至るまで、都市・地域形態に応じて、様々な場・空間に存在している。



▶国土交通省総合政策局 2025/3/28 第3回グリーンインフラ懇談会「グリーンインフラの今後の方向性について(中間整理案)」より抜粋

2 グリーンインフラの考えを取り入れた本市の主な取組

(1) 「桑都の杜」の整備

- ・ イベントを通して、季節に応じた公園の魅力を発信
- ・ 本市にゆかりのある樹種・草本を植栽し、環境教育、郷土学習などに活用
- ・ 雨水貯留浸透施設（バイオスウェル等）の整備により、水源涵養機能を強化し地下水を保全
- ・ 災害時にも使用可能な既存井戸を活用し、水辺を整備
- ・ ソフトバンク(株)と連携し、植樹により CO₂ を削減



メイン棟イメージ



メイン棟 2 階 軒下テラス

活用する
みどりの機能

自然保全・改善
都市防災向上
レクリエーション
景観形成・創出
地域コミュニティ
子育て・環境教育

解決を図る
地域課題例

にぎわい創出
健康増進
生物多様性確保
雨水流出抑制

(2) 「高尾山ふもと公園」の整備（令和6年4月開園）

- ・ 東京都との連携による河川事業との一体的整備
- ・ 地元関係者、公募市民、学識経験者、東京都などが参加するワークショップなどによる意見集約
- ・ 階段護岸と河川内歩道、多自然型護岸の整備（都）や地域の生態系を踏まえた樹木植栽や伐採木を活用したベンチの設置（市）
- ・ 水辺環境を活かした学習の場など、利活用の拡充を目指す



高尾山ふもと公園



環境教育用パンフレット

活用する
みどりの機能

景観形成・創出
レクリエーション
地域コミュニティ
子育て・環境教育

解決を図る
地域課題例

にぎわい創出
暑熱対策

(3) 「いずみの森義務教育学校 ビオトープ」の取組（令和7年度）

- ・隣接する六本杉公園から引き込んだ湧水を活用した学校敷地内にあるビオトープの質の向上と湧水保全の取組
- ・地域の児童・保護者などを対象とした生物多様性の保全や周辺エリアの水循環について学ぶイベントの開催と、植樹や流路の見直しを協働により実施予定



生物多様性、水循環について学ぶ



ビオトープの生き物を探す

活用する
みどりの機能

自然保全・改善
子育て・環境教育
地域コミュニティ

解決を図る
地域課題例

生物多様性確保
雨水流出抑制

(4) 「上川の里」における官民協働・共創の取組

- ・令和6年度の自然環境調査で、希少種を含む多数の動植物を確認
- ・地域のNPO団体、民間企業等との保全活動協定に基づく、里山保全や子ども向け自然体験イベントなどの取組を展開
- ・森林整備の実施によりCO₂吸収や水源涵養機能が向上



上川の里



NTTドコモによる木こり体験イベント

活用する
みどりの機能

自然保全・改善
景観形成・創出
地域コミュニティ
子育て・環境教育

解決を図る
地域課題例

生物多様性確保
ゼロカーボン
雨水流出抑制

(5) 雨水貯留浸透機能を有する「雨庭」の周知

- ・都の豪雨対策基本方針改定により、豪雨対策の目標降雨が引き上げられ、雨水の流出を抑える「流域対策」及び水害に強い「家づくり・まちづくり対策」の取組として実施
- ・富士森公園においてグリーンパートナー養成講座修了生（市民）、公園指定管理者及び造園事業者を対象としたワークショップにて「雨庭」を3か所設置



ワークショップ参加者による雨庭設置



設置した雨庭(富士森公園)

活用する
みどりの機能

都市防災向上
自然保全・改善
地域コミュニティ

解決を図る
地域課題例

雨水流出抑制
生物多様性確保
暑熱対策

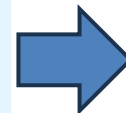
3 グリーンファイナンスについて

(1) 国における取組の方向性

国は、グリーンインフラをあらゆる場面で導入し、継続的に活用していくため、様々な資金調達手法の検討、先駆的な案件創出等により、資金調達を円滑化する環境整備を進めることとしている。

現状と課題

- ・リスクに見合うリターンを、金融機関・投資家等に訴求できていない。
- ・グリーンインフラのプロジェクトで資金調達に成功している取組も見られてきているが、広がりは限定的。



取組の方向性

- ・グリーンインフラの活用を促進する様々な資金調達手法の検討・モデル化、先駆的な案件の創出・全国展開等を進める。
- ・自然環境の保全・創出に資する取組に対して資金を集めるため、その価値を金銭価値として取り扱い、売買する仕組み（クレジット等）の導入・活用を検討する。

▶国土交通省「グリーンインフラの今後の方向性について(中間整理案)」より

(2) 本市における資金調達の検討

ア J-クレジット

J-クレジットを活用し、温室効果ガスの排出量削減を推進するほか、創エネや省エネの取り組みと合わせ、新たな財源の確保も視野に入れ、効果的なグリーンインフラの活用を目指す。

イ 「多摩の森」活性化プロジェクト

令和5年7月、東京都及び12区市町村は「森林環境譲与税の活用に係る都内連携に関する協定」を締結し、森林環境譲与税を活用して多摩地域の森林整備を進めることとしている。 ※協定担当所管は産業振興部農林課

4 今後の課題

- (1) 官民連携による取組のさらなる推進、民間主導の取組の促進
- (2) 市民へのグリーンインフラに関する取組の周知・啓発、参画促進
- (3) 導入による効果測定の検討
- (4) 取組推進のための資金調達